

●木津川出張所西田所長との話し合い 8月14日(木)

淀川事務所環境課長・松本氏、淀川事務所正木氏の出席で環境課長の参加は予想外でした。里山の会は、有田、太田=理事、竹門康弘・顧問、山村常務理事の4人でした。

毎年定期的に里山の会の要望を出して、木津川出張所長との話し合いをおこなってきました。木津川出張所からの返答では予算は昨年と同額が計上されていますが、物価高騰や人件費の上昇などで実質事業の縮小がやむなしというのが現状だとの苦しい胸の内が語られました。借用物品の貸し出しは例年通りで実行できる。木津川漁協への申し入れは実情を伝えるところが精いっぱいだと説明されました。竹蛇籠製作については昨年通り協力が可能になるよう努力するとのことでした。

竹門先生から2015年から取り組んできた木津川本川での竹蛇籠や中聖牛設置の効果について詳しく解説がされました。環境課長も何度もうなずいていただく場面がありました。今後京都大学院生の藤井さんの研究成果などを里山の会の諸メンバーと共に学習会を開催することに意見が一致し、新年1月に開催することとなりました。これまで里山の会は5群16基の中聖牛を設置してきました。この取り組みで製作した竹蛇籠は200本を超えています。そして竹門先生のお話だと設置場所から上流200m、下流300mに影響が及び、水の流れと流れる土砂に変化を与えているとのことで、上空からの写真での説明がありました。里山の会も長年の取組で年を重ね技術の伝承に懸念が生じて、今後継続出来ていけるのだろうかというのが現状で、これまで通り完全ボランティアでは考えられないでしょう。これまで5群16基の中聖牛の組み立てと設置、200本余の竹蛇籠を製作した実績及び研究成果を、国土交通省淀川河川事務所はどのように評価をしているのでしょうか、これから河川管理にどのような利活用を考えておられるのかを、強く求めました。頑張ってきたものとして是非お聞きしておきたいものです。毎年連続して行ってきた木津川出張所への協力依頼をこれからも繰り返さなければならないのであれば、この辺りが身の引き時期ではないのかと考えさせられました。私たち京都大学の研究に役立つならと身を粉にして協力を行ってきましたが、国交省の協力と理解があって取り組む事が出来ましたが、この取り組みへの評価は全くないのが現状です。私たち里山の会は、この貴重な経験と技術を伝承してゆきたいと強く願っていると強調しておきました。



●第29回 里山講演会のお知らせ

テーマ:子どもと生きもの ―竹への関心が育んだ自然とのつながり―

―幼少期の自然体験が人生に与える影響について、保護者の皆さんと語り合います―

今回の講演会では、長年ともに活動が続けてきた小林慧人さん(森林研究所職員)をお迎えし、幼少期の自然体験が人生にどのような影響を与えるのかについて語っていただきます。

竹への関心をきっかけに、木津川での活動や国内外での研究へと広がった小林さんの歩みは、子育て世代の皆さんにとっても大きなヒントとなるはずです。忙しい中、時間を割いてくださった小林さんとともに、自然との関わり大切さを考えるひとときを過ごしましょう。

(前号で会場を中央公民館としたのは、中央住民センターのまちがいです。)

日 時:9月6日(土)13:00~15:30 会 場:京田辺市中部住民センター「せせらぎ」

参 加 費:無料(先着順・定員 50 名)

申込方法:メールにて以下の情報をご記入のうえ、お申し込みください

氏名 住所 電話番号 出来れば年齢 宛先:fddb257@yahoo.co.jp

講師紹介: 小林慧人さん(森林研究所職員・32 歳)

大阪府池田市出身。造園家の父の影響を受け、同志社大学へ進学

木津川河川レンジャーとして地域の自然や歴史を学び、幼児との魚とり活動に参加

京都大学大学院農学研究科にて竹類の研究に取り組み、国内外で視察・研究を重ねる

現在は森林研究所にて、竹をはじめとする森林資源の研究に従事

中学生による活動発表-若い世代の視点から自然への関心を語っていただきます

中沢洋斗さん(中学3年生) 「ナガサキアゲハ」(チョウ)の観察発表

吉村開さん(中学3年生) 「オオムラサキ」(チョウ)について

自然とのふれあいが、子どもたちの未来を育む力になります。ぜひご家族でご参加ください。

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

●里山農園では今が草刈りの最中に成って来ます

この暑さが何時まで続くのやと予報を見ますと9月初旬も30度近くになってしまうようです。あつという間に春が過ぎてしまい梅雨もわずかな期間でした。テレビでは熱中症対策としてエアコンの連続運転を継続しなさいと言いつけています。異常な暑さで雑草たちはこの時とばかり成長を図っています。木津川堤防の除草作業でハンマーモアが順調に働いていましたがエンジンの連続使用で温度が上がって出力が低下し、思っていたように能力を発揮できなくなっていました。里山農園の雑草たちも成長を続け異常な高さや茎の太さになっていますので、肩掛け機の使用には今まで以上に横に振る力が必要に成って、ここでも思うように作業ができません。それでも刈取らなければと、やる気と力をふり絞って頑張ってくださいています。木津川の除草は少なくともあと2~3日のところまで到達していただいています。

●木下さん親子が事務所で竹割作業をおこなってくださいました。8月18日(月)

これまでだとお盆を過ぎると少しは暑さも和らぐものでしたが、体温を超える気温が連続する中で竹割作業を行うことは考えられないものでしたが午後5時まで熱心に頑張ってくださいました。また続いて有田さんも来所されて11月に予定している一泊の幹部研修会の下準備の打ち合わせと、翌日の事務局会議の資料作りに汗をかいていただきました。続いて翌日の19日には里山農園の作業日では森島さん、播川さん、太田さん、金田さんに加えて中学生の吉村君も参加してくれました。

●先日の昆虫観察時に結成30周年事業として会誌「里山の自然」の総目録の編集が提案されました。

また京都府の交響プロジェクトの交付金申請の最終修正の連絡が届きました。このお盆は何かと事務作業が重なり休憩の時間が無く17日にやっとメールでの送信ができて肩の荷が下りました。しかし総目録の編集は20日の事務局会議を目標に10号までを読み上げて資料を完成させなければと意気込みましたが9号までが精一杯でした。というのも終日机に向かい読みとった資料を打ち続けるのですが、現在は肩が凝りもみもみを繰り返し、親父が使っていた肩叩きを就寝前に200回はしないと翌日は腕が上がらなく作業に支障が出ることになってしまう体になってしまいました。それでも9号まで進める事が出来ました。あともう少しですのでがんばります。